

女性剣士の輝く場所、お通杯

第7回
宮本武蔵顕彰
女子剣道大会
(お通杯)

平成20年10月26日(日) 岡山県・宮本武蔵顕彰武蔵武道館
主催◆宮本武蔵顕彰剣道大会実行委員会・宮本武蔵顕彰会・
美作市教育委員会・美作市体育協会
撮影◆山口朋子

団体
地力を発揮して、活人会Aと
曾根崎署が団体頂点に立つ



◆団体戦100歳以下の部
優勝◆活人会A(岡山)
坪田祐佳、阿部有希子、稲垣恵理

◆団体戦100歳以下の部

チーム	順	先	中	大	得点
活人会A	坪田	阿部	稲垣		1
	×	メコ	×		2
パナソニック 電工本社	×	メコ	×		1
	中野	平山	高橋		0

100歳以下の部決勝 【中堅】阿部(活人会A) メコー②平山(パナソニック電工)

▶ポイントゲッター同士が戦った先鋒は引き分け。中堅戦、先制した平山だったが、とられてすぐに阿部も反撃、勢いのあるひきメンをとり返すと、コテを加えて逆転勝利を決めた(写真は両者の攻防)



◆団体戦101歳以上の部
優勝◆曾根崎署(大庭)
甲斐敦子、嶋本美加子、西野美智子

101歳以上の部決勝 【中堅】嶋本(曾根崎署) ②— 熊谷(福岡B)

▶曾根崎署は準決勝で徳島剣友会Aを相手に本数差の接戦をかいぐって決勝進出を決めた。先鋒戦の一勝で王手のかかる中堅戦では、熊谷の足が止まったときに嶋本がメン一本(写真)。ほどなく時間がおとずれた

◆団体戦101歳以上の部

チーム	順	先	中	大	得点
曾根崎署	甲斐	嶋本	西野		2
	②	②	×		2
福岡B	徳留	熊谷	後藤		0
					0

剣豪・宮本武蔵の生誕の地といわれる美作市。そこにそびえる武蔵武道館で毎年開催されているのが、今年で7回目の「お通杯」である。

参加は中四国に偏るものの、東北は山形からの参加もある。

全国でも女性のオープン大会は少ない。年輩の女性剣士やママさん剣士たちが活躍できる場ということもあって、お通杯は年々参加人数を増やす。今年の参加は706名、183チームであった。

人数が増えたことで年々レベルも上がり、今では全国区で活躍する選手やチームの参加も増えた。が、一方でレベルの上がりすぎを懸念する声もあり、数少ない輝ける場を残して欲しいという願いも多く聞かれた。参加者の声を聞き入れ、年々よい変化をとげている大会だけに、今後の大会運営にさらなる期待をしたいところだ。

お通杯は団体戦2部門、個人戦5部門で開催される。個人戦は年齢別に「18〜29歳」「30〜39歳」「40〜49歳」「50〜59歳」「60歳以上」と分けられ、段位は問わない。団体戦は年齢を合計して「100歳以下」「101歳以上」の部門で分けている。そのため親子でチームを組み、参加をするケースもあるようだ。

審判レベルの高さもこの大会のウリであり、大会審判団は全員八段(女性は七段)と、それだけでも大会に参加する価値がありそうな豪華な顔ぶれとなっている。



◆個人戦30歳～39歳の部
優勝・今道恵子(SUNX株・愛知)
「今年4月からチームの監督を務めることになり、今日は後輩もみているので、下手な試合はできないと思って。“出るからには優勝”と宣言してしまっていたし、体現したことで手本になればと思います」



30～39歳の部決勝

今道(SUNX株) ⊖メー
杉江(岐阜県剣道連盟)

▲緒戦から強い攻めで相手を崩し、決勝まで一気に勝ち上がった今道は、杉江が手元を上げ、完全に防御の態勢となったところにコテを打ち込み一本(写真)、二本目は遠間からの伸びやかなメンを決めて決勝とした。短時間の勝利であった



18～29歳の部決勝

坪田(活人会) ⊙メーコ 鷲塚(岩国刑務所)

▲今年の全日本女子選手権を制した坪田と、鹿屋体育大学時代の後輩の鷲塚。両者テンポの速い攻防は途切れることがない。試合中盤に坪田が得意の跳び込みメンを決めて先制した(写真)。しかし残り時間わずかで鷲塚が大きくかついでコテを放つと、これが目の覚めるような一本に。試合は延長戦に入った。坪田があわや有効打という技を連発して試合を圧倒しはじめると、鷲塚がコテに出たはなをひきながらのメンにとらえた



◆個人戦18歳～29歳の部
優勝・坪田祐佳(活人会・岡山)
「緊張が大きかった全日本で大会に比べ、この大会は“楽しもう”という気持ちで臨むことができます。むしろ楽しまないで勝てない」と言ってもいい大会だと思います」



60歳以上の部決勝

中村(滋賀県剣道連盟) ⊙メー 坂田(誠之会)

▶延長戦開始すぐに、坂田が痛烈なコテを打つと、それに打たれた手応えを感じたが、中村は審判をうかがう素振りを見せた。が、これは一本にはならず、延長1回目終了し主審の指示で深呼吸が入れられ、延長2回目へ。じっくりとした構え合いの後、互いにメンに跳び込むと、起こりの早かった中村が先に部位をとらえた(写真、左が中村)



50歳～59歳の部決勝
渡部(島根) ⊖メー 服部(岐阜県剣道連盟)
◀この部門の第1回に優勝、前年度3位入賞の渡部が序盤から果敢に技を出した。延長戦、一本を狙う渡部の誘いに引き出される形で服部がコテに出ると、渡部が正面からメンを見舞い、見事な一本になった(写真)。渡部は準決勝から連続で決勝の試合に臨むことになったが、それが集中力の継続には功を奏したようだった

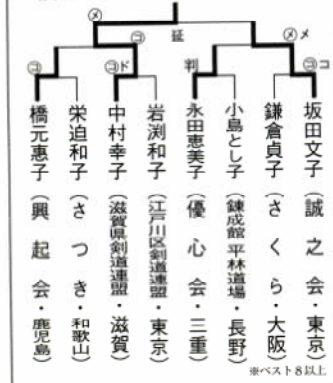
40～49歳の部決勝

田島(滋賀県剣道連盟) ⊙メー 小笠原(愛媛)

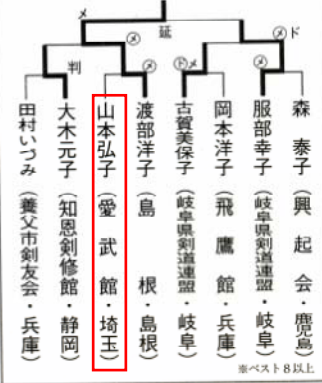
▶田島が体勢をかためコテに打ちに出るや、そのすきに小笠原が間髪入れずメンを見舞って先制を果たす。しかし二本目開始とともに跳び出した田島のメンに小笠原も完全に不意をつかれた。試合は延長戦へ。小笠原は会場が沸いたツキを皮切りに、打突を連発したが、有効打のないまま延長3回目を迎える。開始すぐに小笠原の放ったメンは田島をおびやかす一打であったが、最後は小笠原の居着きに反応した田島が鮮やかなメン(写真)で勝負を決めた



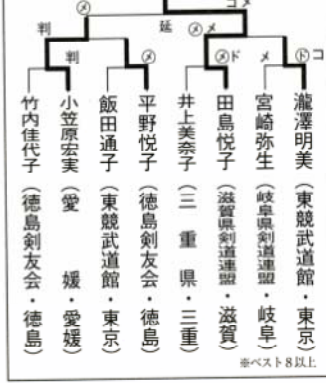
◆個人戦60歳以上の部
優勝・中村幸子(滋賀県剣道連盟)



◆個人戦50歳～59歳の部
優勝・渡部洋子(島根)



◆個人戦40歳～49歳の部
優勝・田島悦子(滋賀県剣道連盟)



◆個人戦30歳～39歳の部
優勝・今道恵子(SUNX株)

